

2015年(平成27年)  
1月19日  
月曜日



朝日新聞大阪本社  
〒530-8211 大阪市北区中之島 2-3-18  
電話 06-6231-0131 www.asahi.com

創業 91年  
総合衣料商社 南船場  
GOMEN 江線



### 人生の贈

頭だけでなく。京大人文科学信一さんはアジア戦跡を巡り、

京大人文科学研究所所長 山室信一(63)

## 人生の贈りもの

### 戦争の歴史 足で歩いて考える

1

——今年で戦後70年。先生の著書には日露戦争や第1次世界大戦、満州国など戦争に関するものが多いですね。

特に戦争自体を専攻にしているわけでもないのです。私は法政思想史という研究分野に長く身を置いてきました。というところ、机に座って本を読んでいるといったイメージを持たれるかもしれませんが、アジアの法政思想史を調べようとすると現地を歩かざるをえず、いやでも戦争の歴史にぶち当たるんです。1989年に北京の大学で半年間教えてから20年間ほど、年に数回はアジア各地を回りました。それは同時に第2次世界大

戦の日本軍の戦跡をたどる旅でもありました。たとえばタイとミャンマーの国境地帯では、田んぼを少し掘るだけで日本軍兵士の身分証である「認識票」が出てくる。マレー半島では日本軍による虐殺、あるいは日本軍に対する報復行為などがあって、いまも慰霊祭が行われている。日本から何千キロも離れた異国でなぜ、という思いが強まり、のめり込んでいったんです。

私は頭で考えるのではなく、足で歩いて考えるタイプ。外国のどこかに行ってもおなかを壊したことはありません。これは両親に感謝したい、ささやかな我慢ですね。

——戦後生まれですが、戦争に対する強い思いがあるので、どのようなか。

「7歳のときにテレビで見たドラマ「私は貝になりたい」は忘れられません。当時テレビがある家庭は珍しかったので、近所の人たちも私の家に来て一緒に見ていました。みんな実際の戦争を体験した大人たちです。最後に戦犯として断罪された主人公の絞首刑のシーンになると、畳の底から立ち上ってくるようなうめき声が聞こえてきました。「戦争はいつでん、こぎゃん風が一番弱かもんが苦しめらるっと」。今でも絞り出すような声が耳に残っています。

——熊本で育ちました。遊び場は熊本城でした。水のないお堀の中に下りていくと横穴が掘られていてね。「戦国武将の」加藤清正が掘った洞窟。どこかにつながる抜け道

だ」と友だちと言いながら、ろうそくを持って探検遊びをしていました。実際は戦時中に掘られた防空壕(ぼうくうごう)だったのでしよう。——父親はどんな人ですか。土木工学をやった人で、戦時中は鹿児島鹿屋にあった基地をつくらされたそうです。飛び立つ特攻隊員を、帽子を振って見送ったという話もしてくれました。戦後は「日本は命のやりとりの総力戦で負けた。でもこれからは頭の戦いだ」と言っていました。湯川秀樹さんのノーベル賞受賞もあって、日本人は頭脳で欧米に伍していくしかないと考えていたのでしょうか。

(聞き手・河野通高)

やまむろ・しんいち 東大法学部卒。東大助手、東北大学教授などを経て86年に京大人文科学研究所助教授、98年に教授、2013年から所長。著書に「キメラ—満州国の肖像」「憲法9条の思想水脈」など。

◆10回連載します。



アジアは歴史学者や文化人類学者と歩いた。「私とは違う見方を学べました」——京都市左京区、桐本マチコ撮影